

2024年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	文学言語学専攻
専攻主任名	烏谷 知子
教務主任名	鈴木 博雄

200字以内

今期の総評
回答率は100%であり、満足度は前回と同じ4.2で良好であったが、研究テーマの進展が3.6と低かった。博士論文執筆のための研究が深まり、自己評価が厳しくなっていることが一因と考えられる。研究費や海外学会への参加に感謝する声がある一方で、図書館や院生室の改善、最低在籍期間の短縮を求める意見も寄せられている。

200字以内

改善のための方策
コピー機などの設備に対する評価は前回と同じ3.0と低いままだが、同じ場所を使っている文学研究科の他専攻の院生からは平均4.07と高評価を得ている。今後も引き続き、指導教員を通じて院生から具体的な意見を集め、評価が低い理由を明らかにする。学会や研究会への参加については、その有益性を再認識できる機会を多方面から提供し、博士論文の効率的な執筆に向けてさらに工夫を凝らしたい。

2024年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	日本文学専攻
専攻主任名	嶺田 明美
教務主任名	嶺田 明美

200字以内

今期の総評

「カリキュラム・授業」の専門的な力・授業内容・論文指導の適切性などの中核的な項目については、4ポイント以上でレベル維持がされていると思われる。ラーニングコモンの利用のポイントが低い、必要があるかないかは不明。図書館の満足度が高いため、図書館を利用していると考えられる。「院生」自身のことについては、個々で差があるように感じられる。

200字以内

改善のための方策

今年度をもって日本文学専攻は閉じ、次年度から新専攻がスタートする。現行のカリキュラムについて変更する余地はないが、履修・修士論文執筆にむけて適切な指導を行い、個々の研究がスムーズに進むよう促したい。

2024年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	英米文学専攻
専攻主任名	川畑 由美
教務主任名	金子 弥生

200字以内

今期の総評
<p>「カリキュラム・授業」、「院生」、「その他」のすべての分野において、高い評価が得られた。学会への参加は、学生によりはっきり分かれた結果となった。</p> <p>今後はすべての院生が参加できるような、研究室での諸活動をあたりに考えていく必要があると思われる。</p>

200字以内

改善のための方策
<p>学生は、授業に熱心に取り組み、それぞれの研究も着実に進めている。</p> <p>学会への参加度は学生により、結果が大きく分かれている。今後はすべての院生が参加できるような、研究室での諸活動をあらたに考えていく必要があると思われる。</p>

2024 年 9 月 13 日

2024 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	言語教育・コミュニケーション専攻
専攻主任名	森博英
教務主任名	大場美和子

200 字以内

今期の総評
<p>概ね例年通りの 4 点台の平均点であることに加え、専門的な力が付いたかという問いに対しては 5 点であり、特に大きな問題は予見されない。「学会・研究会活動」は、依然として平均点が 3 点台ではあるが数値は昨年度よりあがっており、改善がみられる。「研究テーマの進捗」は、昨年度の 3 点台から 4 点台となったので、後期も継続して学生に働きかけたい。</p>

200 字以内

改善のための方策
<p>「研究テーマの進捗」に関しては後期より 1 年生の特別演習が始まり、教員からの働きかけの機会が増加して改善するものと予測される。自由記述に院生室のプリンタに関する不満があったため、状況を確認して対応を検討したい。</p>

2024年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活機構学専攻
専攻主任名	大谷津早苗
教務主任名	中山 榮子

200字以内

今期の総評

回答者数が3名/7名であり、全体像を表しているとはいえず残念である。
院生室については毎年新年度のガイダンスの後案内しているので、もっと利用してほしい。

200字以内

改善のための方策

本専攻には社会人、留学生、長期履修生が多いが、博士論文を完成させるという目標は同じである。専攻としては指導を円滑に十分受け、博士論文を発表できるよう、それぞれに応じた対応をさらに進めていきたい。

2024年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活文化研究専攻
専攻主任名	野口朋隆
教務主任名	鶴岡明美

200字以内

今期の総評
生活文化研究専攻では、従来からの各専門分野に分かれた2年制に加え、アーキビスト養成プログラムの1年制コースが設置して3年目となるが、今期は様々な問題に対応しなければならず運営が困難を極めたこれまでに比べ、経験値の向上を含めて、大きな問題もなく対応することができた。

200字以内

改善のための方策
アンケートの中で、図書館の利用に関する数値が低かった。図書館の有効活用を図書館職員の方とも相談しながら院生へ提示していきたい。

2024年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活科学研究専攻
専攻主任名	横塚昌子
教務主任名	白川哉子

200字以内

今期の総評

本年度は、在籍者が1年次だけの6人である。総評は、総合平均よりわずかに高い。評価が4以下であった4項目の中で、「2 大学院の授業は期待していたものに比べていかがですか」の評価が、3.67と低いので、各院生と具体的な意見聞く機会を作り、今後求める授業像を検討する必要性を感じる。コピー機、パソコン、プリンターの設備については、院生室(B4 4T05)が、使用する上で不便という条件が重なっていると考えられる。

200字以内

改善のための方策

設問の「5 受講している授業内容に満足していますか」、「6 学位論文(修士)、又は課題研究等の指導は適切に行われていますか」、「7 専攻での研究指導が適切になされていますか」の設問は、評価が高かった。が、授業内容については、個別に各院生と面談等で意見を聞く機会を設け、現状把握し、要望に対して、今後のカリキュラム編成にも参考にしたい。

2024年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	心理学専攻
専攻主任名	松野 隆則
教務主任名	榊原 良太

200字以内

今期の総評

大学院FDアンケートに回答した専攻院生は25名中の5名であり、回答率20.0%は前回(2023年度後期)の大学院FDアンケート回答率15.4%と比べ、わずかな上昇に過ぎない。したがって本アンケートへの回答率向上という目的は達成されたとは言えない。これについて、大学院FDアンケートに回答する意義がこちらの意図通りには専攻院生に伝わっていないことが明白であり、前回のアンケートに対する院生への回答が、学びの改善に繋がるものとして受け取られる内容ではなかった可能性も考えられる。回答のあった5名分の傾向としては、学習・研究環境に関する質問への回答が極めて肯定的であったのに対し、各自の研究に関わる質問へはこれまで同様に否定的な回答が繰り返されており改善は見られていない。なおこれら以外の、専攻の授業や研究指導体制に関わる質問には概ね肯定的に答えられており、総合的には当専攻での学びにある程度以上の満足を感じていることが窺われる。

改善のための方策

大学院FDアンケートの回答率の向上に向けて、アンケートに寄せられた自由記述欄での質問や要望について、意見表明した意義を感じられるよう、より丁寧に対応していく。研究の活性化に向けては、低学年次からの学会入会や研究会参加について、諦めずに呼び掛けを継続する。また、各自の修士論文の研究において実質的進展がみられるよう、各ゼミや専攻での集団指導をより一層充実させていきたい。

200字以内

2024年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	福祉社会研究専攻
専攻主任名	鶴田 佳子
教務主任名	川崎 愛

200字以内

今期の総評

今年度4月入学院生は4名のうち3名が中国からの留学生である。それぞれの研究内容を考慮した上で、院生同士がチームとしても学べるよう受講科目の調整、指導を行った。留学生と基礎学科からの進学者は日本語能力だけでなく、専門的な学修にもかなり差がある。そのため、受講院生が多い授業ではフィールドワーク、学外者へのインタビューなど各自の関心に応じて学びを深める工夫がなされた。本専攻のFDアンケート回答者が専攻のなかで最も多かったのは、院生同士、院生と専攻、院生と教員の意思疎通が円滑であることの証左である。

改善のための方策

設問3の開設科目が希望を満たしているかについて、満たしていない院生がいる。入学年度が2023年度以前の院生や1年制社会人大学院の院生は教員の定年・異動などにより開設科目が変更しているためと思われる。今期で1年制の院生2名が修了するので、専門職大学院との同時開講科目を維持しながら2年制大学院としての学びの幅と魅力を出せるよう、授業科目の閉講、新設、科目名変更をして段階的にカリキュラムの整備を進めていく。

200字以内

2024年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	環境デザイン研究専攻
専攻主任名	下村 久美子
教務主任名	番場 美恵子

200字以内

今期の総評
回答者の配慮による可能性もあるが、全ての項目で高い評価であった。

200字以内

改善のための方策
日頃からアンケートでははかりきれない学習環境の希望事項などを聴ける環境を整えていく必要がある。

2024年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	人間教育学専攻
専攻主任名	中村 徳子
教務主任名	白敷 哲久

200字以内

今期の総評

昨年度のアンケートでは、院生室の機器備品の充実を求める内容があったが、改善している。また、昨年度の改善点として挙げていた、研究室の諸活動や学会への参加の推奨については、M2の院生がフィールドで研究を進めた内容を学会にて発表した。設問全般で4.6と高い評価になっていることから、院生の満足度の高さがうかがえる。「大学院の授業を通して、将来の進路につながるものが発見できましたか」という設問のみ4.00と、他の設問に比べてやや低くなっている点について策を講じていきたい。

200字以内

改善のための方策

回答率が60%と5名中2名が回答していなかった。より正確な評価を得るためにも、次年度はさらに声掛けをすることで100%の回答を目指したい。また評価が低かった項目である「将来の進路につながるものの発見」を促すためにも、引き続き院生との対話を重視し、授業のなかにキャリアアップにつながるような具体的な内容を盛り込むよう工夫していきたい。

2024年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	福祉共創マネジメント専攻
専攻主任名	粕谷 美砂子
教務主任名	李 恩心

200字以内

今期の総評

専門職大学院のカリキュラムや授業内容について楽しく学んでいるとの声がある一方で、全体の満足度においては課題が見られた。社会人院生であることや遠隔地からの受講状況等により、オンライン講義による仕事との両立がしやすいとの評価も見られたが、図書館の活用や院生の研究活動（特に学会等への参加）の項目においては図書館の活用や学会等への参加が十分に行われておらず改善が求められる。

200字以内

改善のための方策

授業の進め方や研究指導において教員による指導のばらつきが課題として挙がっている。今後は教授会等で研究指導やカリキュラム、授業運営に関する継続的な検討を行い、院生の満足度を高めていく。また、修業期間について、仕事との両立の難しさや適切な研究指導のための体制の見直しも求められているため、研究指導の在り方を含めて継続検討していく。